

道上学区まちづくり推進委員会

委員長 齊藤 義雄

(問合せ先) 084-963-2391 (道上交流館)

事業内容

(1) 健康増進事業

- ① 学区民体育大会事業（5月11日）
- ② 健康教室事業（中止）

(2) 文化生涯学習事業

- ① 学区盆踊り大会事業（8月2日）
- ② ふれあい祭り事業（10月25日～10月26日）

(3) 教育事業

学区民食生活改善指導教室事業（年4回 6月5日・9月4日・11月6日・1月15日）
夏休みこどもクッキング（8月21日）

(4) 環境美化事業

① 公衆衛生事業

- (ア) 環境ロードの作成（5月～7月）
- (イ) ポスター・標語展示（10月25日～10月26日）
- (ウ) 芦田川源流、八田原ダム、中津原浄水場視察研修（11月25日）

② 道上駅整美活動事業（通年）

③ 一斉クリーン事業（12月 各町内会）

(5) 人権啓発事業 人権講演会事業（11月22日）

(6) 安心安全事業 自主防災事業（11月23日）

(7) まちづくり推進委員会運営事業（通年）

(8) コミュニティ育成事業（各町内会）



学区民体育大会事業



学区盆踊り大会事業



ふれあい祭り事業



学区民食生活改善指導教室事業



道上駅整美活動事業

成果

各種事業を実施することで、地域住民の交流の機会ができ、世代を超えたつながりの促進につながった。
また、健康づくりや環境美化、防災意識の向上など、地域課題に対する意識の高まりが見られた。
特に、学区民体育大会や盆踊り大会・ふれあい祭りなどの地域行事には多くの住民が参加し、地域の一体感・コミュニティの活性化につながった。

課題

一部の事業においては、内容が固定化し、マンネリ化の傾向が見られる。

また、参加人数の伸び悩みに加え、事業を担う人材の不足も課題となっており、事業が継続して発展していくための体制づくりが求められる。

課題解決にむけて

地域住民への周知や参加しやすい仕組みづくりを進めることで参加者の拡大を図るとともに、新たな担い手の発掘・育成にも取り組み、地域の課題解決につなげていく。

2025年度 道上学区 人権講演会

ロシアのウクライナ侵攻と 戦時下の暮らし



ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、戦争の現実や戦時下の暮らし、人権について考える講演会を、2025年11月22日（土）、道上交流館にて実施しました。

講師のアンナ・セメネンコさんは、ウクライナ東部ハリコフでピアノ教師として平和な生活を送っていましたが、2022年に始まったロシアの侵攻により状況が一変し、知人のいる福山市へ家族3人で避難することとなりました。

ウクライナでは総動員令が出されており、夫は出国することができず、今も母国に残っているとのことです。離れて暮らす家族への思いや、戦争の中で生きる人々の現状について、実体験をもとにお話し

いただきました。

講演の最後には、平和への想いを込めたピアノ演奏も披露されました。

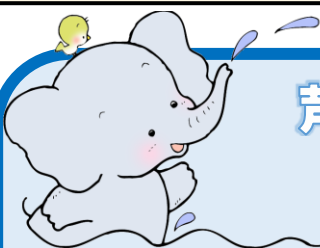


参加者からは・・・

- ・戦争の怖さや悲しさを改めて感じた
 - ・平和な暮らしは決して当たり前ではないと実感した
 - ・世界で起きている出来事を自分ごととして考える機会になった
 - ・家族や日常の大切さを改めて考える機会になった
 - ・「やりたいことはやってほしい」という言葉が印象に残った
- など、多くの感想が寄せられました。



今回の講演会を通して、参加者一人ひとりが平和の大切さや命の尊さについて改めて考える機会となりました。今後も人権について学び、考える機会を大切にしていきたいと思います。



芦田川を知ろう！ みんなで行く水の旅

～見慣れた川から、水の大切さを感じよう。～



私たちの生活に欠かせない「水」について学ぶため、芦田川の水源から浄水場までを巡る視察研修を2025年11月25日（日）に実施しました。

当日は芦田川源流、八田原ダム、中津原浄水場を訪れ、水がどのように集められ、管理され、私たちの家庭に届く飲み水になるのかについて学びました。

芦田川源流では、水源地の自然環境を実際に見ながら、水を守ることの大切さを学び、八田原ダムでは、ダムの規模や水量を調整する役割などについて説明を受け、普段見ることのできない設備を見学。中津原浄水場では、水が飲み水になるまでの浄水の仕組みや管理体制について説明を受け、水道施設の役割への理解を深めました。

今回の見学を通して、水の大切さや水道施設の役割について改めて考える機会となりました。

